



5万分の1地質図幅の新刊

伊良部島 IRABUJIMA

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 矢崎清貫(四国出張所)

発行 工業技術院地質調査所

取扱先 地学文献センター (0423) 62-5050

●この図幅地域は九州と台湾を結ぶ紺碧の南海 1,200 km の間を白いサンゴ礁に縁どられ点々とつらなる琉球列島弧(南西諸島)の宮古本島から北西約 7.8km の海上に浮かぶ島で北緯 24°44'~24°50' 東経 125°8'~125°14' にある。区画内には伊良部島と下地島の2つの島が含まれ総面積は 37.4km²である。現在は この2つの島で宮古郡伊良部村を形成しているが長い期間先島離島として苦境下におかれていた地域である。しかし最近はもっとも技術的な枠を要求される下地島パイロット訓練飛行場がほぼ完成している。この飛行場は約 3,615,000km²もあ

って面積的には羽田空港に匹敵するといわれるほど広大な面積があつて国際空港なみの規模を誇っている。

- ところで地質は伊良部島北東海岸サバウッカー湧水井に僅かにみられる鮮新世~中新世の島尻層群を最下部層としてその上に不整合関係でつて来るいわゆる礁石灰岩で代表される更新世の琉球層群(琉球石灰岩)さらに現世の石灰岩・風化土壌・古砂丘堆積物および砂丘堆積物によって構成されている。サバウッカーでみられる島尻層群はほとんどが中粒褐色~黄褐色を呈す砂岩で宮古島北部に標式的に発達する大神島層に酷似することからあるいは島尻層群下部の層準に対応するものであろう。

- 琉球層群は下位から保良石灰岩(従来の伊良部石灰岩)・友利石灰岩および下地島石灰岩がみられる。このうちもっとも厚層を示すものは友利石灰岩の上部および下地島石灰岩である。これらの各石灰岩は基質・包有物および化石から検討すると宮古島に標式的に分布する石灰岩と同一のことからあえて新しい岩石名を使用せず同一岩石名とした。

- 島の平坦面は標高60m以上の牧山面・40~50mの伊良部面・20~25m白島崎平坦面および8~15mの下地平坦面がある。このうち牧山平坦面はおそらく関東の下末吉面に相当するものと推定される。伊良部島の自然および伝説らを知りたい方は本誌 271号を参照されたい。

地質ニュース	第289号	9月号
	定価 ¥ 450	〒 50
昭和53年9月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	